

令和7年度 我孫子中学校学校評価報告

I 目的

教育活動や学校運営、学校生活についてアンケートによる評価を行い、結果を改善に生かす。

II アンケート実施期間

令和7年12月

III アンケート対象者と回答率

(1) 対象者	生徒821名	保護者821名(生徒数)	職員55名(県職のみ)
(2) 回答率	生徒88.3%	保護者58.2%	職員100%

IV アンケート方法

- (1) Forms で回答
- (2) 各質問項目を「よい(A評価)」「まあまあよい(B評価)」「あまりよくない(C評価)」「よくない(D評価)」の4段階で回答する。(A及びB評価を肯定的評価とする)

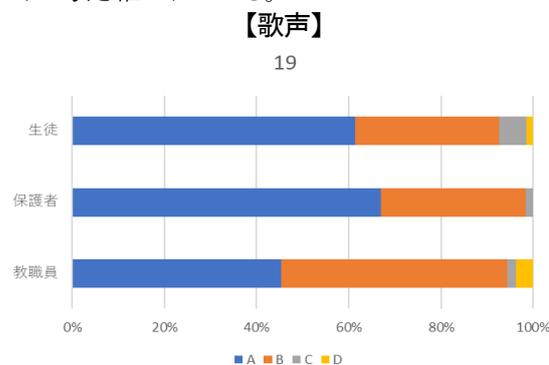
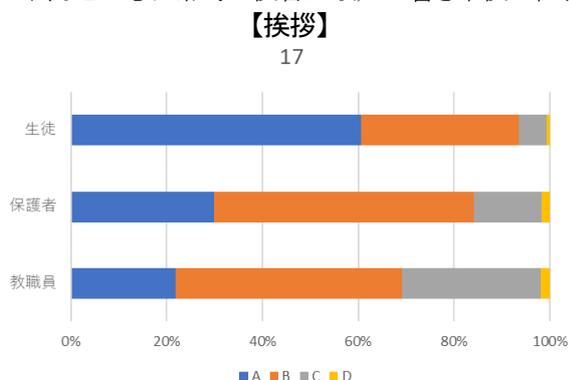
V 結果と考察

生徒・保護者・職員のそれぞれの回答の割合を比較し、傾向や特徴等からの考察を以下に載せる。

1. 学校生活について

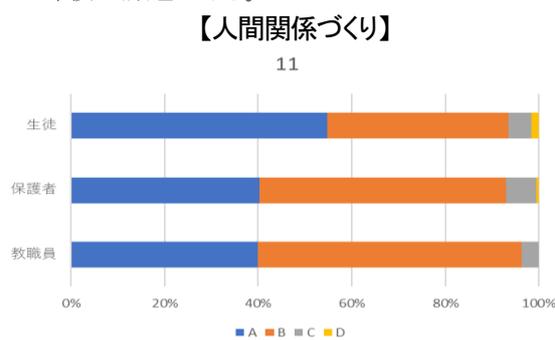
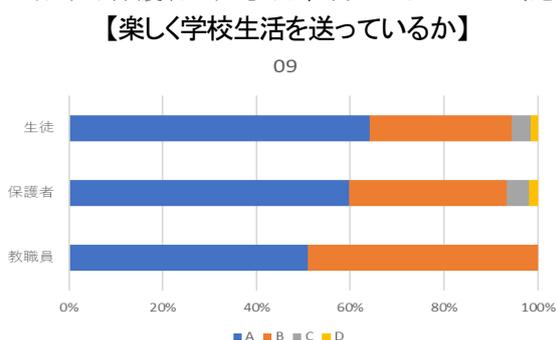
・挨拶については、生徒の「肯定的評価」が94%昨年度より2%向上に対し、保護者は84%となり昨年度とほぼ変化はなかった。職員から見た生徒の「あいさつ」に対しての肯定的な評価は65%となり、生徒との意識の差が大きくなっている。

・生徒の活発な歌声は、肯定的評価が昨年度同様に92%と高くなっている。合唱コンクールだけではなく、帰りの会などでも日常的に校舎に歌声が響き本校の伝統の取り組みが引き継がれている。



・「楽しく学校生活を送っているか」に対し、94%の生徒が肯定的評価であり、昨年度と同様である。今後とも、迷わずに「楽しく学校生活を送っている」の回答が8割程度、「あまり楽しくない」と回答する生徒が0人になるように目指していきたい。

・授業でのペア学習、少人数での学び合い、委員会、部活動、各行事等での様々な経験をとおして、良い人間関係が築けている生徒が94%である。保護者、教職員とも肯定的評価が9割を超えているが、SNS等でのトラブルを心配する保護者の声もあり、ネットモラルへの対応について今後は課題である。

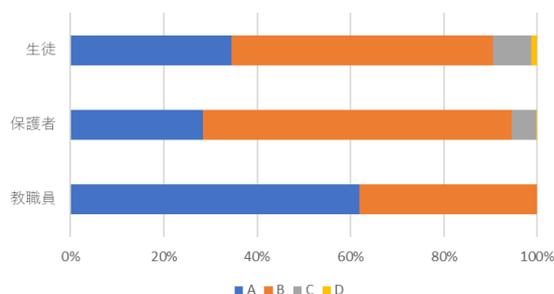


2. 学校運営について

- ・教育目標である「より良い未来を創る人の育成」の意識の向上について教職員の「努めている」との肯定的な意見は100%であった。学校教育目標をしっかりと意識して今後も教育活動に取り組んでいきたい。
- ・家庭や地域との連携は、肯定的評価が保護者92%、教職員98%と、共に9割を越えている。今後も、保護者や地域と連携し、ボランティア活動等で協力を得られるように努めたい。

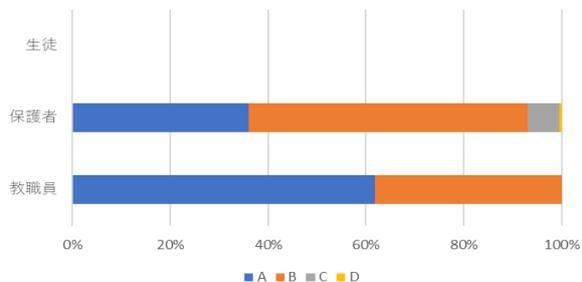
【よりよい未来を創る人の育成】

01



【学校と地域と連携】

04

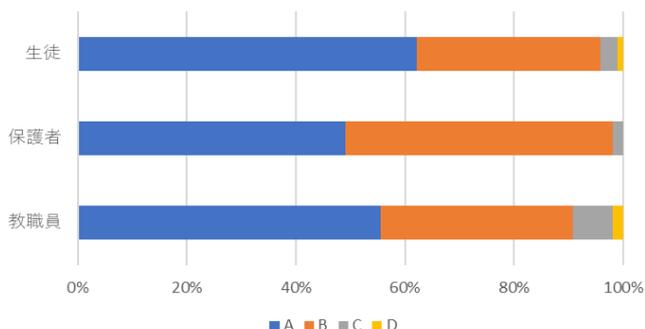


3. 学習指導について

- ・「協力して授業に取り組む」では、生徒の96%、保護者98%が肯定的評価をしている。グループ学習や「学び合い」等学校での取り組みが生徒や保護者に定着してきている反面、学び合いに対する「生徒に任せきり」との意見も少数あるため説明等を行い、生徒の学力向上を図っていく必要がある。
- ・総合的な学習の時間での探究学習では、生徒の90%、保護者の95%がその成果を肯定的に捉えている。課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の力を益々、今後は高めていきたい。

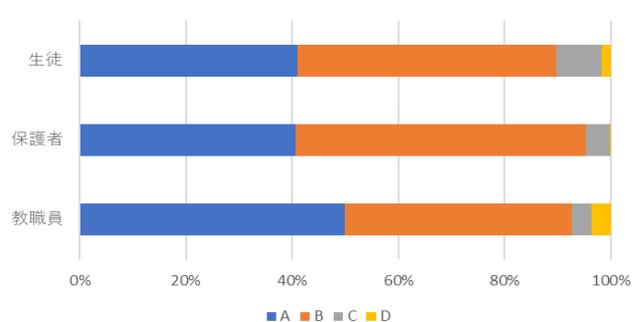
【協力して授業に取り組む】

07



【探究学習】

06

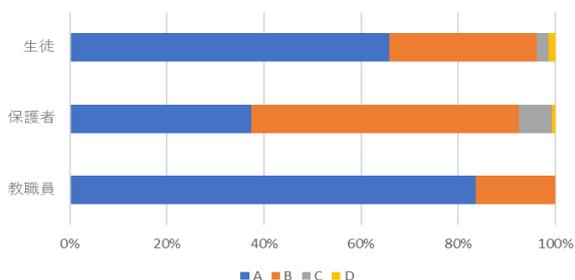


4. いじめ対策、安全指導について

- ・「先生は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めていましたか」は、生徒が96%、保護者は昨年度より4%向上し92%である。今後も生徒が安心してSOSを出せる環境を意識していきたい。
- ・「登下校のマナー、社会のルールを守っている」では、「守っている」の回答が教職員で8%、保護者32%、生徒が78%となっている。生徒自身は、ルールを守っている意識があるが、客観的に見ている教職員、保護者からは厳しい評価になっている。特に自転車の乗り方については、継続して指導が必要である。

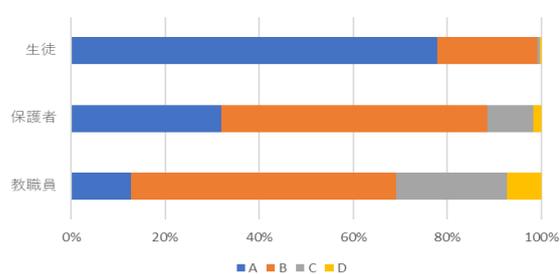
【いじめ対策】

13



【登下校マナー】

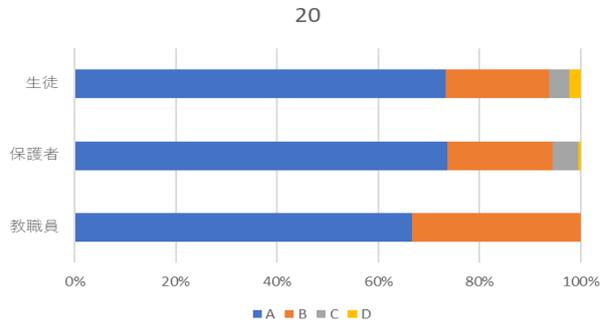
16



5. 部活動への取り組み・部活動の運営について

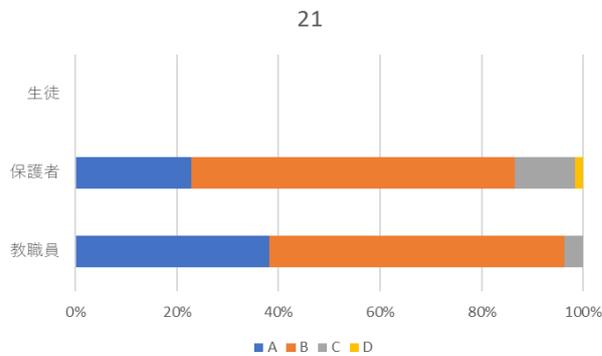
・「部活動への積極的な取り組み」について、教職員の肯定的な意見は100%である。今後部活動の形が変化していくが、教職員視点では、どの部活動も一生懸命に取り組んでいる生徒の姿が写っている。

【部活動への取り組み】



7. 小中一貫教育について

・小中一貫教育グランドデザインの掲載は、周知が十分といえない。また、保護者への広報を積極的におこない、まずは、「知ってもらう」ことを今後は進めていきたい。



自由記述（要約）

○あいさつ

生徒・保護者は「自ら進んでできている」と高く評価していますが、教職員側には更なる自律性を求める声も一部あります。伝統である挨拶を形式だけに留めず、心のこもった交流として地域に定着させることが期待されます。

○歌声

3者の認識が「非常に意欲的」で一致しており、特に合唱コンクールは学校の一体感を象徴する感動的な行事です。この成功体験を他の学習活動の自信へと繋げ、我孫子中の伝統として残していってほしい。

○学校は楽しいか

大多数の生徒が「楽しい」と感じており保護者からも感謝されていますが、一部に不登校や集団生活への不安を抱える生徒もいます。全体満足度の高さに隠れがちな「少数の悩み」へのきめ細かな個別対応と、安心できる居場所作りが重要です。

○人間関係づくり

様々な活動を通じて「好ましい関係が築けている」とする生徒が多い一方、自由記述では SNS (LINE)トラブルを心配する意見がありました。対面での人間関係構に加え、ネット社会での適切な距離感とマナーを育む教育の充実が急務です。

○よりよい未来をつくる人の育成

「自律」した生徒像への期待は高く教育目標も共有されていますが、1年生など学年により理解度に差が見られます。日々の活動が「将来の自分」にどう繋がるのか、生徒が目的意識を具体的に持てるような動機付けの工夫が必要です。

○地域連携

情報発信は概ね好評ですが、一部の保護者からは HP の更なる更新や WEB・アプリへの完全移行による迅速な共有が求められています。学校の様子をより透明化し、地域や家庭との双方向なコミュニケーション環境を整えることが信頼関係の強化に繋がります。

○学び合い、探究学習

教職員が推進する「学び合い」に対し、保護者からは「教員が教えず生徒任せで理解が不十分」という強い不安が出ています。教育手法の意図を丁寧に説明し、基礎学力の定着と人間関係の向上を両立させる指導の質の担保が大きな課題です。

○いじめ対策

教職員の早期発見への意識は高いですが、保護者は組織としての透明性や、加害者への毅然とした指導をより強く望んでいます。生徒が安心して SOS を出せる環境を維持するため、学校と家庭の迅速な情報共有体制の構築が不可欠です。

○登下校のマナー

生徒の自己評価は高い一方、保護者や教職員からは自転車の危険走行や歩道の広がり歩きが具体的に危惧されています。認識の乖離を埋めるための実態に即した安全指導と、地域住民への配慮を含めた社会性の育成が求められています。

○部活動への取り組み

生徒の意欲は非常に高く評価されていますが、一部で過度な指導を心配する声も届いています。ガイドラインを遵守し、勝利至上主義に陥らない、生徒の健康と自主性を尊重した持続可能な運営が不可欠です。

○小中一貫教育

教職員には方針が浸透していますが、保護者側には具体的メリットが見えにくく、認知度もそれほど高くありません。義務教育9年間を見通した教育の価値や取り組みを、家庭へより分かりやすく発信し、地域全体での共感を得る努力が必要です。